

# 2019年秋～2020年春 ひつじ書房 新刊のご案内

言語学の主流であり、若手研究者の登竜門でもある、「ひつじ研究叢書(言語編)」  
この春続々刊行中!



## 第156巻 語彙論と文法論と

村木新次郎 著 定価 8,800 円+税

語彙と文法とのかなめになるのは、単語である。単語の語彙的な意味の体系性を問うのが語彙論であり、単語がくみあわさって、文をつくる文法(形態論と統語論と形態統語論)の体系性を問うのが文法論である。昨今の日本語研究では、「文法と意味」「シンタクスと意味」という姿勢が主流にみえる。そこでは、単語が等閑視され、形態論が軽視されている。本書は、日本語の単語と形態論をめぐる諸問題をあつかう。言語間の対照にもいいおよぶ。

●書籍詳細ページ <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-936-6.htm>



## 第159巻 江戸語資料としての後期咄本の研究

三原裕子 著 定価 8,800 円+税

従来、後期咄本は江戸語資料としての価値を認められることが少なかった。しかし一方で、当時既に古臭さ・尊大さを想起させる「ござる」、婉曲な拒絶を表す「一昨日来い」等の様々な実例が見られ、市井の会話が得られる資料と言える。本書はこれらの実例から〈表記変化を促すもの〉〈類型化と使用層の変化〉等、表記・語彙・語法他の視点から、江戸語が上方語的要素を脱し、独自の発展を遂げた変化の要因を論じるものである。

●書籍詳細ページ <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-959-5.htm>



## 第161巻 文脈情報を用いた文章理解過程の実証的研究

学習者の母語から捉えた日本語理解の姿

石黒圭 編 定価 6,800 円+税

「家の奥」ってどこ? 「若干名」って何人? 「小枝を拾って食べる」? 「観光地のソフト」と「ソフトの朝練」の「ソフト」は同じ? 「名前を控える」と「お酒を控える」は? 日本語学習者の頭のなかで起きている意味の理解という不思議な現象を、母語による分析からあぶり出し、その語彙推測能力や文脈把握能力に迫る画期的論文集!

執筆者: 井伊菜穂子、石黒圭、烏日哲、赫楊、Nguyen Thi Thanh Thuy、田中啓行、Dang Thai Quynh Chi、張秀娟、布施悠子、宮内拓也、蒙韞、劉金鳳

●書籍詳細ページ <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1007-9.htm>





## 第 163 卷 三重県尾鷲方言のアクセント研究

平田秀 著 定価 7,300 円＋税

三重県尾鷲市尾鷲方言のアクセント体系について、フィールドワークにもとづいて詳細に記述する。尾鷲方言のアクセント体系は、3つの「式」の対立をもつ点、単独形では高い音調をもつ語が音環境によって低く発音される「連読変調」がみられる点が、通方言的にみて特異である。尾鷲方言は、2つの式の対立をもつ京阪方言とかつては同系統であったととらえられ、尾鷲方言が3つの式をもつに至った経緯について、考察を行う。

●書籍詳細ページ <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1009-3.htm>



## 第 164 卷 言語と慣習性

ことわざ・慣用表現とその拡張用法の実態

土屋智行 著 定価 4,200 円＋税

本書は定型表現とその拡張用法の網羅的な記述・分析を通して、言語と慣習の関係を認知・社会的な側面から考察したものである。日本語慣用表現や諺をはじめとした定型性の高い表現を多く収集し、コーパス言語学的手法を用いて分析している。また「形式的変化を容認しにくい」と言われていた定型表現が様々な形式的変化を伴って使用されている事例を示し、定型の言語から創造性が発揮されるダイナミズムを理論的にまとめ上げている。

●書籍詳細ページ <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1010-9.htm>



## 第 165 卷 近現代日本語の「誤用」と言語規範意識の研究

新野直哉 著 定価 6,500 円＋税

本書は、副詞「全然」に関する昭和10～20年代を中心とした学界・一般社会双方における規範意識の考察や、現代日本語における「誤用」の定番例として知られている「気がおけない」・「世間ずれ」・「名前負け」等の使用実態と言語規範意識についての考察を行い、さらに昭和戦前～20年代の日本語の実態とそれに関する言語規範意識の研究に役立つ新資料の紹介およびそれを用いた研究の実例をも示したものである。

●書籍詳細ページ <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1011-6.htm>



## 第 166 卷 東北方言における述部文法形式

竹田晃子 著 定価 8,000 円＋税

本書は、東北方言における述部文法形式のうち、特徴的な形式が用いられる自発表現・可能表現およびテンス・アスペクト・ムードを取り上げ、共時的・記述的な観点による臨地面接調査、話者の属性差に注目した社会言語学的調査、明治から平成まで約百年間の方言分布調査を分析し、個々の現象・形式や各方言の体系のあり方および地理的分布が形成される過程の解明をめざしたものである。

●書籍詳細ページ <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1012-3.htm>





## 第 167 卷 英語中間構文の研究

吉村公宏 著 定価 7,200 円＋税

理論を問わず、英語中間構文は人気のあるテーマである。しかしながら、看過されてきた問いは、能動と受動の中間がなぜ「属性」を表現するのか、そのときの属性とはそもそも何か、という根源的な問いである。本書は伝統文法、生成文法、認知文法の研究成果を総括し、上記の問いに認知意味論的視点から切り込む。多数の実例データを駆使しつつ、新しい説明原理によってその本質に迫る。認知意味論・語彙・構文・語法の研究者には必見の一冊である。

●書籍詳細ページ <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1013-0.htm>



## 第 168 卷 共同注意場面による日本語指示詞の研究

平田未季 著 定価 6,4200 円＋税

本書は、日本語母語話者が目の前の対象へ共同注意を確立するために行うやりとりを観察し、それに基づいたコ系・ソ系・ア系の新たな意味論および語用論的分析を提示する。近年の海外の指示詞研究で注目されている「聞き手の注意の状態」などより相互行為的な要因を分析に導入し、直示用法、テキスト内用法、またコ系・ソ系・ア系に後接する「-レ」、「-コ」などの接尾辞も含め、相互行為場面に根差した統合的な日本語指示詞研究を行う。

●書籍詳細ページ <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1014-7.htm>



## 第 169 卷 ビジネス文書の応用言語学的研究

クラウドソーシングを用いたビジネス日本語の多角的分析

石黒圭 編 定価 7,200 円＋税

生きたビジネス文書をネット上からコーパスとして取り出せる時代が到来した。クラウドソーシングをデータベースとし、日本語の国立国語研究所と AI の富士通研究所のコラボで、ビジネス日本語の諸問題と改善法を実証的に明らかにした、新境地を開拓する論文集！執筆：青木優子、浅井達哉、石黒圭、市江愛、井上雄太、岩崎拓也、岩田一成、赫楊、喬曉筠、熊野健志、佐野彩子、蒙韞、布施悠子、アンドレイ・ペケシュ

●書籍詳細ページ <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1016-1.htm>



## 第 170 卷 学際的科学としての言語学研究

吉田光演教授退職記念論集

田中雅敏・筒井友弥・橋本将 編 定価 12,000 円＋税

本書は、広島大学大学院総合科学研究科教授吉田光演先生が、2020 年 3 月に定年を迎えられるに際し、国内外のドイツ語学・言語学研究者が寄稿した記念論文集である。吉田教授は、言語学者・教育者として多大な功績を残され、多くの言語を対象に専門分野は多岐にわたる。本書に収録された論文は、音韻論、統語論、意味論、語用論から言語教育、コーパス言語学、通訳理論まで様々な分野に広がっており、言語学研究の学際性を例証するものである。

●書籍詳細ページ <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1017-8.htm>

